提言第19号　肺動脈カテーテルに係る死亡事例の分析　第1部 開心術編／第2部 検査編
事例9
＜事例概要＞ ① 90 歳代、女性、身長150 cm台、急性心筋梗塞、重度の僧帽弁閉鎖不全症、肺高血圧症がある患者。抗血栓薬を服用中。 ② 血行動態を把握するため、肺動脈カテーテルを挿入（使用したカテーテルのバルーン適正容量1.5 mℓ）。 ③ 圧波形モニタで確認しながら、右内頚静脈より肺動脈カテーテルを挿入。肺動脈までカテーテルを誘導してバルーンを1.5 mℓ膨張させたが、肺動脈楔入圧を測定できず、バルーンを収縮した。再度、1.5 mℓ膨張させた際、シリンジの抵抗が消失する感覚があった。 ④ 再膨張した直後に咳嗽あり、肺動脈損傷を疑い手技を中止。直後に大量喀血、心肺停止となり、検査開始約1 時間後に死亡。 ⑤ 死因は、右中葉肺動脈損傷による出血性ショック。死亡時画像診断（Ai）有、解剖有。